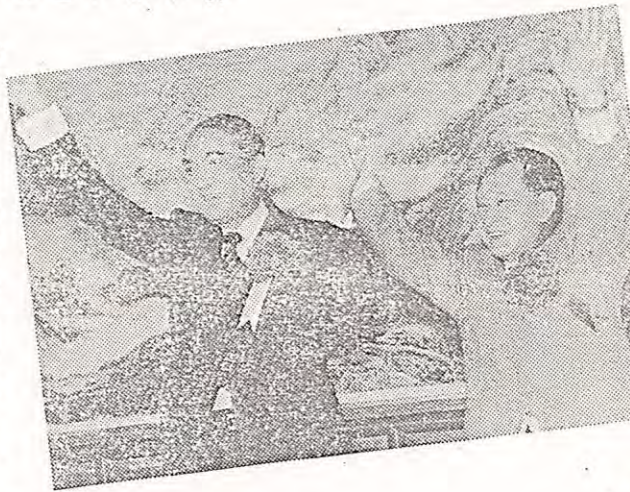


『誤国主義』に陥った中曾根首相

歴史観を述べた藤尾発言と偏見を述べた中曾根失言。後者の影響はいまだに続いている

藤尾発言と中曾根失言

藤尾発言が大きな話題を呼び、戦後日本政治に残る事件として落着いたあと、いわゆる中曾根「知識水準」発言のニュースが世界を駆けめぐった。これら一連の問題について、わが国では、藤尾氏はクビを切られて当然とされ、切った中曾根首相は、みずからの対米失言について一応の外交的処置が済んだかにみながされている。しかし、国際的な評価はむしろその正反対である。もちろん韓国や中国は藤尾発言の対象国であるために中曾根首相の処置に満足の意を表してはいない。だが、日本にとってもっとも重要なパートナー



であるアメリカに関しては、問題は小さくも決着していない。

特にアメリカのアジア研究者、中国専門家、そしてジャバノロジストの間では、今回の一連の出来事の意味は全く違ったニュアンスで受け止められているようだ。日本の成功のカ

がやや遠のいたかに見える現在、首相は中曾根外交の総決算として近く訪米を計画していると聞くが、一体どんな顔をしてアメリカへ行くつもりか。事態の重さを、中曾根首相ご本人が認識されていないのではないかとと思われる。

すでにさまざまな論議があったけれども、その口調がややアナクロニスティクであったとはいえ、藤尾発言は一つの歴史解釈であり、わが国の戦後史あるいは近代史の通説に抗して、ある種のふっきれなきとともに潜在してきたまぎれもないオビニオンである。これに対して中曾根失言は、アメリカ合衆国の建国の理念あるいは存立の根幹に触れる挑発であり、また藤尾発言が歴史の過去への解釈問題であるのに対して、中曾根失言は歴史の現在と未来にかかわる問題でもあるのだ。エスニシティの問題や人種問題は、多民族多入種国家アメリカにたえず複雑な影を落しているテーマであり、ロン・ヤス関係を誇ってきた中曾根首相が、この点を無視して軽々に語った責任は実に重大であろう。

最近の中曾根首相の言動を見ると、失言が起る二つの背景があったように思われる。その第一はいわゆる中曾根ブレイク政治の谷であらう。

すでによく知られているように中曾根首相には大きくわけて三つのグループのブレイクが存在する。一つは中曾根支持の財界人グループ。二つは学者・文化人グループ。三つはかねてから中曾根氏周辺に存在した大小の黒幕たち。それらのブレイクに囲まれた中曾根首相は、一貫して耳学問に励んできた。こうした耳学問の危険性はいうまでもなくその浅さと一見もつともらしい説弁にあるのである。これが中曾根首相本来の多弁、雄弁を支え、増幅してきたうえに、中曾根首相自身のいわば知識のつまみ食い好きを助長してしまっているところに大きな落とし穴があったのではない。

第二の問題は、わが国の官僚機構とくに外務省の責任であらう。日本にとって最も重要な対米関係について、日本外務省は中曾根首相に一体どの程度の本格的な知識なり情報なりを与えていたのか。対米外交がロン・ヤス関係として喧伝されるとするならば、当然アメリカについて避けるべきタブーや言ってはいけないことの十戒を十分に説明しなければならなかったはずではないか。思わぬところにあった落とし穴とはいえ、日米関係をもっとも重視してきたこれまでの政府・外務省の努力、民間の努力、それらのものがすべて水泡

中 嶋 嶺 雄
(東京外国語大学教授)

ギを解明した『通産省と日本の奇跡』の著者で、私の親友でもあるカリフォルニア大学のチャルマーズ・ジョンソン教授は、先日、次のようなメッセージを届けてきた。すなわち、「藤尾発言は一つの歴史観の表明であり、アメリカのアジア研究者から見ていると、日本人として当然あり得べき見解を表明したものだ」と評価できる。一方、中曾根首相は大変困ったことを言ってくれた。このために親日家やジャバノロジストの発言力が弱まり、肩身が狭くなった。中曾根失言は藤尾発言よりはるかにコストが大きい」と。

このような見方がアメリカ側にあることを中曾根首相はどこまで自覚されているのか。ゴルバチョフ・ソ連共産党書記長の訪日予定

に帰してしまうほどの重大な失態であったと思う。

中曾根首相は世界の中曾根、サミットの中曾根と、その外交的成果を誇ってきただけに、今回の失言は、日本のイメージを、その尊大さという点で国際的にも大きく傷つけたのであり、その代価ははかりしれない。

これに対して藤尾発言は、その賛否はともかく、一つの世界認識であり、歴史観である。にもかかわらず、中曾根首相はこれを全く受け入れる姿勢を示さずに、藤尾氏をスケープゴートとすることによって当面を糊塗する方策を採ったのだが、事柄の性格からすれば中曾根首相こそ率先して辞任すべきであつたはずである。

しかも藤尾発言については、強引な政治決着が行なわれたにもかかわらず、問題の本質は何も解決していない。日本国内には藤尾発言への共鳴者も多く、政府与党の中にもかなりの支持者が存在している。いや、中曾根首相ご本人も、藤尾発言的心情を本心では共有しているだろう。

考えてみれば、藤尾発言は、韓国や中国に対して日本が具体的に何か新たな物質的損失を与えたわけではない。いわば、歴史認識の問題であり、いつてみれば感受性の問題でも

南天の中国名は、南天燭。まっ赤な実を燭光に見たてたのでしょう、冬景色に配した南天の実の、色、かたちはまさしく真紅のシャンデリア。冬の日射しや雪あかりにひときわ赤く輝きます。

●光を電気に、アモルファス太陽電池——太陽電池は光が電気をつくるクリーンエネルギー。一年中、冬の弱い日射しでも輝くことができます。新エネルギー開発の富士電機は、量産化を実現し愛用されている時計・電卓などの機器電源用はもちろん、一般電力用の太陽光発電システムの実現を目ざし、アモルファス太陽電池の変換効率の向上、大面積化に積極的に取り組んでいます。

FUJII
ELECTRIC

新エネルギーの 富士電機

冬のシャンデリア



ある。にもかかわらず、きわめて大きな政策的損失が招来されたかのように処理されたところにも問題が残る。

では次に、藤尾発言がなぜ政治決着に至ったのか、背景をみてみよう。その根は決して浅いものではなく、一九八二年の例の教科書問題の決着の仕方をまず振り返ってみればよい。「侵略」という字句をめぐる問題は、結局、外交的・政治的な決着によって事柄の本質にフタがされるといふ経過をたどった。また、八五年の靖国問題にかんする決着も、一応の外交的処置によってなされたが、事柄の本質が全く解決されていないことは、八六年の靖国公式参拝問題にまでそれがつながっていたことでも明らかだろう。

そして三度目。それが本年の『新編日本史』をめぐる教科書問題および藤尾問題である。

このように見えてくると実は藤尾問題の処理は、わが国の最近の対アジア外交、特に韓国、中国に対する一連の外交での卑屈で欺瞞的な政治決着の延長線上にあったもので、けっして突発したものではないことが自明である。

一部には、こうした処理に反発するあまり、中国や韓国内政干渉だという意見もある。だが中国や韓国が反発するのは、中国側の論理であり、韓国側の論理でもあるので、

それはまた当然のことであって、私はあくまでも日本社会の今日のあり方、日本の将来の国際的なあり方の問題としてとらえるべきだと考えている。かつて日本人が犯した過ちに對して、この問題を徹底的に自己の責任の問題として問い詰め、同時に中国や韓国の側とも相互に論じあい、検証しあうのではなく、藤尾発言的な議論そのものが誤りであるという形で、政治決着、外交決着しようとする姿勢こそが問題なのであり、そのことの重大性に政治家もジャーナリズムも必ずしも自覚的ではないところに問題の大きな根があるように思われる。

歴史の再解釈を白眼視

歴史解釈は簡単にゆくものではない。半世紀あるいは一世紀たったとき初めて正当な解釈ができるという性質のものである。戦争責任の問題や、明治維新以来今日までわが国が築き上げてきた近現代史の営みをどう評価し、解釈すべきかは、まさにこれから日本人が本格的に検討しなければならない課題なのである。そのためには、あらゆる見解にたいして、自由かつオープンな言論が保証されていなければならない。

たとえば、ナチス・ドイツの手先だといわれたフランスのビシー政権にベタン内閣の役割についても、フランス歴史学界では、かつてのようなナチスの手先という解釈だけでなくのかどうかという議論が現に起っている。

あのような極限的な状況では、むしろビシー政権が存在した故に、フランスの蒙った戦争の被害は極小化されたのではないか、いわばビシー政権には一定の歴史的役割があったのではないか、という見方さえでてきているのである。

同様の例は、かつての日中戦争に際して日本の傀儡政権といわれた汪兆銘政権に関してもあり得よう。あの時期の汪兆銘を裏切り者

海の香りの贈りもの



波旬の香り

●お求めは有名百貨店・名店街で



'86~'87

年末・年始
プランのご案内

ゆく年、くる年を
静かなフェアモントホテルで
お過ごしください。

クリスマス特別ディナー

12月20日(土)~25日(木)

レストラン・セリジェの特別メニュー

① ¥13,500コース

② ¥ 9,000コース

※他に一品料理も取り揃えてあります。

お正月ご宿泊プラン

新春の皇居の緑を一望に……

12月31日(木)~1月3日(土)

(3泊4日)

2名様(ツイン・ダブル) ¥100,000

3名様(エキストラベッド) ¥123,000

朝食・税・サービス料込み

◎お正月特別催物にご招待



皇居のお隣・千鳥ヶ淵畔

東京
フェアモント ホテル
Fairmont Hotel
Tokyo

〒102 東京都千代田区九段南2-1-17

TEL.(03)262-1151

日本ホテル協会会員

ただけ言って処理してよいものかどうか。たとえ中国の側がそのような評価を固持しようとも、この問題は、これから日中関係史を全般的に総括し、本格的に論議する場合に避けて通れない問題であり、ようやくこれらの問題にメスを加えるべき時期がきているのである。

戦後半世紀近くたってこのような歴史の検証が可能になろうとしている時に、日本が最も深く関与した朝鮮半島や中国大陸の問題については、すべて相手国側の主張する論理や歴史観によって解釈しない限り誤りであるという枠を、政治的・外交的な決着によってめられたことの意味はきわめて重大であり、深刻である。それは歴史解釈の自由への拘束であり、ひいては学問研究の自由に対する政治的介入であるとも言わざるを得ない。他国の内政干渉以上に、むしろ自国内部の学問の

あり方や思想・信条の自由を自ら拘束することになることの危険、そうした事態を招きつつあることこそ危険ではないのか。

そして、一つの解釈や見方が流通すると、すべてそれに沿い、反対意見、少数意見、歴史の再解釈ないしは異議申し立てが白眼視され、危険視されるといふ傾向を助長したことになる。中曽根首相が自らの体面を保ち、外交的結末をつけるために、当面韓国や中国との関係を取り繕っておこう、波乱を最小限に食い止めておこうという発想で処断したとしたら、そのためにわが国が蒙る将来的なマイナスは、はかりしれないであらう。

これから二十一世紀にかけての世界の経済的發展を考えると、日本をはじめ、台湾、韓国など東アジア諸国の将来には注目すべきものがある。大陸中国の六十分の一の人口しか

持たない台湾が中国全土に匹敵する貿易量をもち、十数倍の一人当り国民所得を誇っているのは何故か。韓国が日本に追いつき、追い越せばかりに経済的に発展してきている理由は何か。同じ「儒教文化圏」諸国なのに中国だけがなぜこれほど経済的に立ち遅れてしまったのか。少くとも、台湾や韓国の場合、教育の普及、あるいは工業化の基盤としてのインフラストラクチャーの整備等において、日本の植民地政策が果たした歴史的役割を、たとえば英、仏の対アフリカ政策やアメリカの対フィリピン政策などとの比較においても学問的に再検討しなければならぬと思われる。矢先に、日本の植民地支配、侵略にかんしてはすべて先方の論理を受け容れ、それに抵触すれば謝罪するというパターンで政治決着するのはきわめて大きな問題だと私は思う。

カラダがキモチを裏切りだしたら、ご用心。健康自己管理を心がけて、いつまでも健やかに過ごしたいですね。気力と体力を充実させて、さ、もっひと花、ふた花。

3種の強壮生薬とビタミン、カルシウムがドッキング。
●杜仲 落葉高木トチウの樹皮を乾燥。古来、強壮薬として知られています。●人參 薬用人參の根を乾燥。新陳代謝機能の低下改善などの効果が期待されます。●鹿茸 マシユウアカシカなどの幼角を乾燥。虚弱体質の方に用いられています。●健康維持に役立つビタミンA・C・E、フルルチアミン、ビタミンB₁・B₂・B₆・B₁₂・中高年に不足しがちだと言われる、カルシウムを配合しました。



強 壮 保 健 薬

プロミンエス

●効能 滋養強壮、肉体的疲労、病中病後、食欲不振、栄養障害、発熱性消耗性疾患などの場合の栄養補給、虚弱体質、武田薬品工業株式会社 〒541 大阪市東区道徳町2-27



中国問題に限って言えば、中国側は訪中した作家の山崎豊子氏に対する胡耀邦総書記の発言に見られたように、「日本には国を誤る一部の勢力がある。彼らは誤国主義に陥っている」と述べ、「誤国主義」なる新造語で今日の日本を批評しているのだが、はたして「誤国主義」とは何か、そして「一部の勢力」とはどういう人びとなのかがまず問われねばなるまい。

ところが、中曽根首相は、去る十一月下旬の訪中で胡耀邦総書記の主張する「誤国主義」にたいして聞いたこともなく、間接的とはいえ、これに賛意を表明し、藤尾発言は遺憾である旨を語ってしまった。

中国側の論理を分析すると、そこには二つの座標軸がある。一つは侵略と被侵略という縦軸。藤尾発言もこの縦軸に触れたのだが、世界史において侵略と被侵略という定義をいかにしうるかはそもそも大問題なのである。少くとも日中関係を見た場合に、歴史のどの時点まで区切ってこの問題を論ずるかによって、その意味は大きく変わってくる。清朝末期の中国は、まだまだ東方の小国日本と比べくもな威容を誇っており、日清戦争以前は日本に対しても明らかに侵略の姿勢を示していた歴史的事実は歴然としている。この時

点を区切れば、侵略と被侵略は全くちがった次元の問題になってしまうのである。

また、近年の中国のベトナム侵攻をどうみるか。ベトナム側から見ればまさに中国の侵略に他ならないわけで、日本の歴史上の侵略を非難する当の中国自身が現時点で侵略を行っているという見方も可能である。

もう一つは横軸の座標軸で加害者と被害者というものである。日本民族はつねに加害者であつて中国、韓国は一貫して被害者であつたという論理は、いかなれば民族と民族の論理である。だが、この論理も視点を変えればいかにようにも変化する。中国民族の中にも少数民族が存在し、チベット族やモンゴル族などを例にとれば、漢民族は現在でも加害者ではないだろうか。歴史的にみれば、中華帝国は周辺諸国に対して常に加害者であつたし、漢民族は元の時代に被害者であつたことを除けば、一貫して周辺諸民族にたいする加害者であつたという見方も成立しうる。

これらの問題点を綿密につき合ふべき作業が、今まさに迫られている二十世紀における歴史の再解釈であり、同時代史としての二十世紀史の構築なのである。二十世紀は戦争と革命の世紀といわれるが、その二十世紀の戦争はどう総括されるのか。二十世紀の革命

私は昭和ニケタ生まれの戦後派ではあるが、日本の大東亜戦争や中国侵略の歴史を正當化するつもりはない。しかしながら、日本民族のあの戦争体験は、一部の者、つまりA級戦犯だけが悪かつたで済まされるものなどではないはずである。日本人全員がすべての存在をかけて体験した同時代史であるがゆえに、一部の者だけを悪者にして済ますほど日本人は軽々しく戦争体験を考へてはいない。

そんな安っぽい贖罪は無意味である。だが、こうした点をすべて捨象して、中国側の主張する「誤国主義」の論理を中曽根首相は受け容れたことになるのであり、まさに中曽根首相自身が日本の国を誤るという意味で「誤国主義」に陥ってしまったのではないか。

対中国「位負け」外交の代価

かつて文革時代までは、「毛沢東中国」こそ理想社会であるかのようなイメージがわが国に広く存在していたが、そのような神話はいまや潰え去り、わが国は現在、経済的にも社会的にもあらゆる点で中国より優れた社会だといえよう。

だが、こうした日本の優位性にもかかわらず、日本はこと対中国外交に関する限り常に

道義的に頭を下げ、中国に対して常に位負けしてしまっている。日中間の圧倒的な経済的・社会的比較優位にもかかわらず、外交的には常に位負けするというこのアンバランスが将来も続くとしたら、それで日中関係が安定するはずはない。

わが国は二十一世紀にはアジア最大の、いや世界的にも最先端の経済的・社会的存在として国際社会に大きな責任を持たねばならず、その一方で対中国外交に関する限り、いつも位負けするということは、将来的にわが国内部にさまざまなリスクをもたらし、大変高価なコストになってはねかえってくる危険性さえある。

こうした、対中国位負け外交をくり返してゆく淵源には、やはり中国との付き合い方の原則についての認識の浅さが、わが国の側に存在しているといえよう。今回の訪中を含む中曽根時代の対中外交も、そのことを示している。中曽根首相は、今回の訪中で中国から毎年百人の青年を招く青年交流を提案している。が、こうした青年交流自体にも、様々な問題が存在するのである。

まず一九八四年の中華人民共和国建国三十五周年には、日本から三千名もの青年たちが招待されて訪中したが、この交流も日中間で

合掌

- 信用と経験でご奉仕します
- 業界随一の規模です
- 個人葬から社葬まで

—ご葬儀の総合コンサルタント—

帝部典礼

東京都新宿区信濃町33 ☎(03)353-6311
世田谷・川崎・川口・千葉

はたして人類に幸福をもたらしたのか。二十世紀をまえにして、これらの問題を根本的に検討しなければならぬ時代が迫っているのに、今回の一連の事態は、いかにも平板な歴史解釈を政治と外交の論理によって強制したということにならないだろうか。

しかも、中国のいう「誤国主義」は、一部の者のみが誤っているという立場である。この考えは、常に一部の誤った勢力と、多数の正義の一般大衆が存在するというマルクス・レーニン主義の論理であり、階級闘争史観にほかならない。このような史観、このような論理に、中曽根首相も日本外務省も屈服していいものなのか。

潜在的な摩擦要因になっていることを指摘しておきたい。この提案は、そもそも一九八三年秋に訪日した胡耀邦総書記が、NHKテレビで「未来は日中青年の友好にかかっている」として、三千人の日本の青年を中国へ招待すると言い出したことからはじまった。中国側のオールギランティーという招待で、朝野をあげてこの提案は大歓迎された。

だが、私はこの時に異議を申し立てた一人である。一人当りのGNPが日本の四十分の一という中国から、オールギランティーで三千名が招待されること自体が不自然ではないか。中国の対日戦略がそこにあるにせよ、ないにせよ、渡航費は日本側の参加者が自分

葬儀

ご葬儀に関するお問い合わせは……

☎(03)353-6311

- 信用と経験でご奉仕します
- 業界随一の規模です
- 個人葬から社葬まで

—ご葬儀の総合コンサルタント—

帝部典礼

東京都新宿区信濃町33/世田谷・川崎・川口・千葉

この問題の多い第二項目と第三項目を含む「四点の意見」なるものが日本の中曾根政権下の日中関係調整機関としてつくられた日中二十一世紀委員会を場として出されたところに、一連の問題の重要な源があるように思われる。

先述のように、「一部の軍国主義の頭目」という見方は、まさに中国の階級史観に基づくものであり、「相手側の人民の感情を損う」とは避ける」ということも、被害者・中国の主張を底流にしたものである。この二つの見解が日中関係を律する原則として主張されること自体、日中関係の将来への重大な拘束だといわねばなるまい。

私自身が日中二十一世紀委員会のメンバーでないからこんなことを言うのではなく、私は中曾根政権に協力するつもりもないけれど、こうして日中二十一世紀委員会が日中外交の隠れ蓑に使われたこと自体、中曾根ブレイン政治の問題点だといえよう。

そして、日本の対中国外交は、日中国交正常化以来、中国の主張に常同調することをもって、外交の基本姿勢にしてきたことが、そもそも大きな問題なのである。そのツケは、一九七八年の日中平和友好条約の締結に際しても払われ、毛沢東の世界戦略を受け

任が改めて強調されるようになった。

極論するならば、いわゆる靖国問題も、日中青年交流の現実が生んだ事態だといえよう。

また、一連の訪中に際し、中曾根首相は、胡耀邦総書記と家族ぐるみのつきあいをしたことを得々と語っている、これも中国側からは内心軽く見られていることを知るべきであろう。古くから「君子の交わりは淡きこと水のごとし」といって、「小人の交わりは甘きこと蜜（甘酒）のごとし」と言う。家族ぐるみのべったりとしたつきあいをするなど、一國の宰相のすべきことでなく、まさに小人のすべきことであつて、中国人との交流の根本の原則にもとるのである。

ところで、今回の胡耀邦氏の「誤国主義」発言のアウトラインは、そもそも、中曾根内閣によってつくられた日中二十一世紀委員会の席上で示されたものである。日中二十一世紀委員会が八五年十月、北京で開かれたとき、胡総書記はいわゆる「四点の意見」なるものを提示し、それが日中関係に対する中国側の新しい基本原則になっている。

この「四点の意見」の中で、もっとも問題

わが国の青年たちは、北京ではしゃいで帰って来たために、中国での反応は「日本の青年たちはいわばルンペン気分、戦争責任を全く感じていない。彼らには贖罪意識が欠如している」ということになった。現に日中青年交流の問題は、八五年九月、靖国問題を契機とする反日デモの中で北京大学の学生がこれを問題視していた。

こうした背景の中で、中国各地に南京屠殺資料館などがつくられ、日本の対中国侵略責

二十一世紀委員会を場として

続いてきた華国鋒政権下で、ソ連を戦略的に敵とみなし、「覇権主義」とみなしていた中国の主張を受け容れざるを得なかった。このときの対応は、日本外交の選択肢を著しく狭め、ソ連を大きく挑発して日ソ関係は悪化の一途を辿るにいたつたのに、当の中国は最近、中ソ和解への潮流の中で、ソ連を「覇権主義」とみなす文言を一切公式文書から削除しているのである。

教科書問題や靖国問題などについての日中二十一世紀委員会の対応の基本姿勢は、同委員会のリーダー役であり、自他ともにゆるす中曾根ブレインの香山健一学習院大学教授が、中曾根訪中に先駆けて、藤尾発言を処理するための密使として派遣され、胡耀邦総書記と会っていることにも表われている。藤尾発言について、「この暴言の不当性と非常識さは今後日本国民自身の世論によって、長期にわたり徹底的に裁かれなければならない」との激烈な香山氏の意見が『サンケイ新聞』の「正論」欄に掲載されたのは藤尾氏が文相を罷免された当日であつたというタイミングとともに、中曾根首相の意を忤した形で、あるいはそれを上回る過激な言葉によって表現されていた香山氏の文章も、中国に対するエクスキューズであつたとさえ思われるのであ

葬儀業務代行

銀座 松屋

葬儀業務責任代行

—ご葬儀の総合コンサルタント—

帝部典礼

東京都新宿区信濃町33 ☎(03)353-6311
世田谷・川崎・川口・千葉

になるのは第二項目と第三項目であり、第二項目は「両国の半世紀にわたった対立は、日本にきわめて少数の軍国主義の頭目によってもたらされたものであり、日本人と現在の政府と民間の広範な人々にその責任を負わせるべきではない。日本のごく少数の軍国主義の頭目が引き起した中国侵略戦争とその他の侵略戦争は、中国とアジア・太平洋地域諸国にきわめて大きな災難をもたらした、最終的には日本人民にもきわめて大きな災難をもたらした」となっている。

そして第三項目は「相手側の人民の感情を損うようなことを、できるだけ一切しないようにしなければならない」となっている。

PLAYBOY
1月新年特大号 発売中 ¥490 集英社

完全独占13P! 世界の美しさ/可憐なモデル
時代の秘蔵写真一挙公開!

マリリン・モンロー
最後のヌード

独占/長時間インタビュー/王、原、吉村、全部実名で登場/
クロマティ、愛する
巨人軍優勝の苦言!

●大高酵素からの提案

偏食ぎみの食生活 野菜が不足していませんか

北の大地から健康を
届けて60年——。

北海道生まれの凄い奴。
北海道の雄大な大自然の中で、たくま
しい生命力を秘めて育った新鮮な野菜・
根菜・野草・海藻・果実など60余種類の
原料植物群に糖質を加えて自然抽出
した原液を、120日～180日の時間をか
けて醗酵・熟成させ造りあげられた健康
飲料です。



酵素飲料
スーパーオタカ
●720ml定価3800円●1200ml定価5800円

完性の欠如、それに最大の問題としての中国
側の外貨不足など、さまざまな経済的事情に
よって拡大できないのである。こうした現実
を見据えることなく、二十一世紀のバラ色の
未来を語っていればよい、という姿勢そのも
の間われねばなるまい。

実際には、わが国は今世紀末には一人当り
のGNPが二万ドル以上になろうとしている
のに、中国側は、鄧小平以後の経済政策が順
調に推移するとしても一人当りGNPは一千
ドルにならばいいという状況である。日中間
の格差のみならず、台湾は一人当りGNPで
今世紀末に一万ドルから一万三千ドル、韓国
も八千ドルから一万ドル、香港、シンガポ
ールも一万ドルを優に超すとみられているだけ
に、同じ「儒教文化圏」諸国として、唯一つ
大きく立ち遅れることが明らかで中国をめぐ
る外交や経済関係は今日以上に難しくなるこ

とを覚悟しておかねばなるまい。

「異母兄弟」の間の貸借関係

バラ色のビジョンがうまく実現しなくなっ
たときの中国側の対応姿勢はこれまでの経緯
によっても見えてくる。かつての侵略を責め、
「誤国主義」を糾弾し、日中関係の「四点的
意見」を主張することによって日本に当たっ
てくるだろう。こうした方向を避けるために
も、総選挙で大勝した中曽根内閣は、もしも
戦後政治の総決算を謳うのなら、日ソ外交ど
ころか、まず日中、日韓関係を総決算してお
くべきではないのか。その困難な課題に立ち
向ってこそ、中曽根首相の名は、歴史に残っ
たと思われるが、現実の対応は正反對だとし
か言いようがない。

なぜ、中国は日本をはじめ周辺諸国に比し

格差に驚いて「四つの現代化」路線をひた走
っているのだが、周辺諸国との格差は今後ま
すます開く一方なのだから、このこと自体は
中国側がみずからの責任において究明すべき
重大問題である。

第三は、今日の中国が資本主義的な要素を
取り入れようとしているにもかかわらず、基
本的に中国共産党独裁下の社会主義の枠組を
抜け出すことができないジレンマである。い
うまでもなく中国は、依然として社会主義社
会の特有の非効率、官僚主義等の弊害に悩ん
でいる。

右に指摘した三つの歴史的トリレンマを直
視すれば、中国の将来は決して楽観視できな
いのである。

一方、日中関係は基本的に「異母兄弟」の
関係なのであり、それだけに経済的な貸借関
係、恩恵関係が生じたとき、もしそれが破綻

をきたせば深刻な摩擦を生じる——というの
が日中間の宿命的構図である。かかる状況に
陥ったときに中国側は常に日本の中国侵略の
問題を提起し、あるいは「誤国主義」を提起
してくるであらう。

中曽根首相は今回の訪中で、こうした状況
に常に日本側が置かれ、常に位負けせざるを
得ないパターンを決定的につくってしまった
といえよう。

しかも日本の侵略という言葉を用いること
によって、中国は自らの近代化へのマイナ
ス遺産を中国自身の責任において再検討するこ
とを免罪してしまっていることにに対し、日本
側として言うべきことはないのか。韓国につ
いても、今日の韓国が「克日」を掲げるあま
り、かなり無理な内政・外交上の姿勢をとっ
ていることにに対し、日本として言わねばなら
ぬことはもっとはっきり言うべきではないの

か。このような問題提起こそが、日中、日韓

の真の対話への道だと私は思う。

繰り返すが、先述のトリレンマに中国自身
が陥ったことの責任はどのように問われるの
か。中華思想と「毛沢東思想」、特に文革の
代価は大きい。日中戦争の犠牲者の倍にも
ぼる二十万の死者を文革で出したことに對す
る中国共産党自身の責任はどうなるのか。異
民族との戦争の犠牲者よりはるかに多い犠牲
を、革命後社会において生み出した
ことは、社会主義革命の有効性の根幹を問う
という点からもきわめて深刻であり、こうし
た問題の責任をすべて一部の者、つまり「四
人組」を指弾することによって解消できるか
のような立場をとっている中国の論理こそ、
「誤国主義」ではなからうか。

かかる意味でも中国側の「誤国主義」の主
張を甘受した対中位負け外交の代価はきわめ

●大高酵素からの提案

スーパーオタカには 60数種の植物パワー 毎日の健康へのひとやすみ

働き盛りの健康を支えて60年

大高酵素

東京都江東区大島七十五一五

大高酵素

東京 ☎ 03(683)6121 伊豆 ☎ 0142(24)1231
小樽 ☎ 0134(54)7311 盛岡 ☎ 0196(47)1377
旭川 ☎ 0166(31)1016 仙台 ☎ 022(247)1315
金沢 ☎ 0762(37)1156
大阪 ☎ 06(531)8077
福岡 ☎ 092(552)2557

京都東急イン

京の老舗

美味。パッパ

(一泊二食付)

期間 昭和62年3月31日まで
●夕食は下記のお料理屋
朝食は京都東急イン

京料理 **京四季** ¥14,500

湯豆腐料理 **順正** ¥13,200

スッポン料理 **大市** ¥29,500

- 上記料金は、2名様以上でご利用の場合の一人様料金です。
- 各お料理屋まで送迎(往復)いたします。
- その他のコースもございます。

京都駅より無料送迎バス運行

お問合せ・お申込みは/京都東急イン又は東京予約センター・各営業所へ

●さわやかホテル●

東急イン

TEL 075-593-0109

確かに中国は西側指導者に対し「三大障害」の存在が中ソ和解を妨げていると、しばしば安心させるポーズをとってはいる。だが、現実には中ソ関係はこのところ著しく改善されており、去る七月末のゴルバチョフ書記長のウラジオストク演説は何よりもその確認なのであった。

中曾根首相は、先にアジア大会で訪韓したのち、中国と韓国の橋渡しをするのだと言わんばかりに中国側に韓国の意向を伝えたのだが、中国側の反応は大変冷たく、中曾根提案をあっさり拒否したのであった。いかに韓国が北朝鮮との対抗上、なりふりかまわぬ対中接近をこのところ求めているようとも、社会主義中国は、朝鮮半島問題での原則をまげて韓国と外交的に接近したり、いわゆる「四者会談」(南北朝鮮と米・中)提案に同調することなど当面はあり得ないのである。このこ

対ソ外交に決着をつけようと並みならぬ意欲を秘めてきた。対米外交を固め、対韓・対中国外交を固めようとしたのは、ひとえに戦後外交の総決算としての対ソ外交に備えようとした首相の意図を物語っていたといわざるを得ない。

にもかかわらず、このような失言や失態づきでは、果たして対ソ外交において総決算をやり得るのかどうか疑わしくなってきた。今回の訪中にしても、中曾根首相がこの時期に訪中する必然性は外交戦略上全くなかったのではない。首相在任中に鄧小平氏は一度も訪日していないのに、二度の訪中を実現したのは、要するに対ソ外交上の布石であったと思われる。

しかし、中曾根首相にはアジア情勢、世界情勢に対する根本的な認識の欠如があったと思われる。藤尾発言を処理し、日・韓・中の

とは、過般の、金日成暗殺情報」をめぐっても、北京と平壤の関係がいかに密接であったかをみればわかるというものだ。

中国は社会主義国としての自らの威信の保持のためにも、北朝鮮をさしおいて韓国を外交的に承認することはありえない。この当然の読みもできずに、中韓両国の仲をとりもとうとした中曾根首相の姿勢には、社会主義国の本質についての認識がまったく欠如していたと思えない。

こうしたなかで、ゴルバチョフ書記長は訪日に關して一時ほど積極的ではなくなっているように思われる。ゴルバチョフ訪日の日程が決まろうとしていたときに国会があえて北方領土返還の衆参両院決議を採択してみせたり、北海道で大々的な日米合同演習がおこなわれたり、訪韓、訪中のときの一連の発言において、いかにも米・日・韓・中の関係

中曾根首相は、登場以来ロン・ヤス関係を誇り、日本は「不沈空母」だとして、アメリカの対ソ戦略の一翼を担うかのような立場をとってきた。

ところが、最近ではゴルバチョフ書記長の訪日を誰よりも強く望んでいたという。アメリカの「ジャーナル・オブ・コマース」紙(一九八六年八月二十六日付)が「中曾根・ゴルバチョフ会談くらい突飛なものが日本ではほかにあるだろうか」と皮肉たっぷりに書いていたのも、当然であろう。

その中曾根首相は戦後政治の総決算をみずからスローガンに掲げの中で、ゴルバチョフ書記長とモスクワで開く外交で会見して以来、

対ソ外交に決着をつけようと並みならぬ意欲を秘めてきた。対米外交を固め、対韓・対中国外交を固めようとしたのは、ひとえに戦後外交の総決算としての対ソ外交に備えようとした首相の意図を物語っていたといわざるを得ない。

にもかかわらず、このような失言や失態づきでは、果たして対ソ外交において総決算をやり得るのかどうか疑わしくなってきた。今回の訪中にしても、中曾根首相がこの時期に訪中する必然性は外交戦略上全くなかったのではない。首相在任中に鄧小平氏は一度も訪日していないのに、二度の訪中を実現したのは、要するに対ソ外交上の布石であったと思われる。

しかし、中曾根首相にはアジア情勢、世界情勢に対する根本的な認識の欠如があったと思われる。藤尾発言を処理し、日・韓・中の

連携を強化することで、対ソ外交上の有利なポジションを得るのが目的であったのだが、実際には中国は中ソ関係を着々と改善する一方でアメリカのSDI戦略を明白に拒否するという姿勢をとっている。この点こそ、ゴルバチョフ・ソ連を大いに満足させているのであるが、その中国は米国の悩みのタネ、ニカラグアに対して経済援助をするなど、全般的に世界戦略をソ連寄り修正しつつあり、こうした中ソ和解への方向は、毛沢東の世界戦略を否定したことの論理的帰結でもある。

一方で、中国内部には、鄧小平型経済改革の行きすぎ、急ぎすぎに対する批判が出はじめており、その先頭に立つ「知ソ派」の指導者・陳雲らのプレッシャーの存在も中ソ関係改善の動きを助長する方向に働いている。こうした潮流に中曾根首相は全く気がつかなかったであろう。



北へ南へ。全国にひろがるさわやかホテル東急イン。

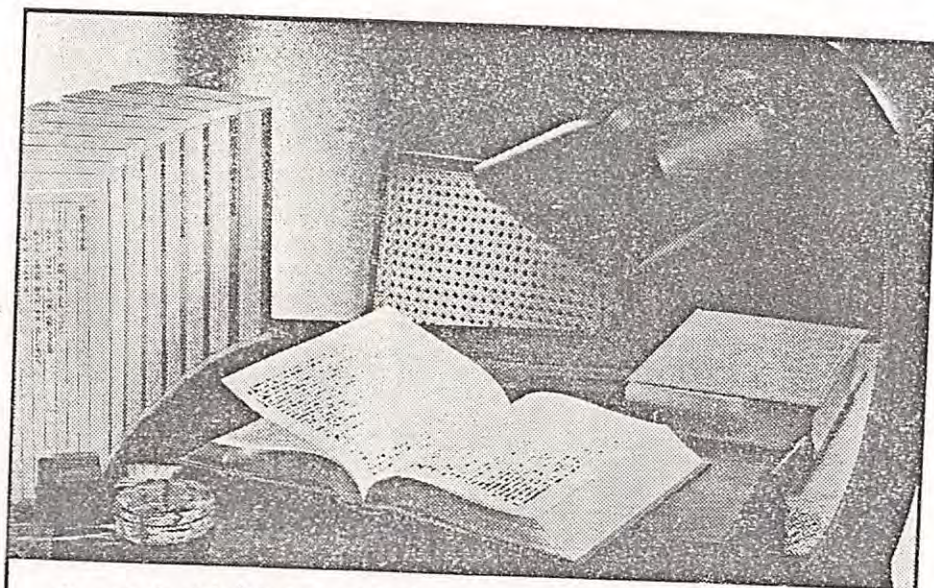
ご予約・お問合せは
お近くのイン
予約センター
営業所へ

オンラインで全国どこ
インでもご予約できます。

北見	0157-61-0109
青森	0154-22-0109
岩手	0166-26-0109
秋田	0155-27-0109
山形	0111-531-0109
福島	0234-26-0109
茨城	0236-33-0109
栃木	0245-23-0109
群馬	0246-23-0109
新潟	025-243-0109
富山	0764-41-0109
石川	0268-24-0109
福井	0263-36-0109
山梨	0272-21-0109
長野	0476-33-0109
岐阜	03-498-0109
愛知	03-431-0109
三重	03-768-0109
滋賀	0422-47-0109
京都	0557-54-0109
大阪	052-251-0109
兵庫	052-202-0109
奈良	075-593-0109
和歌山	0734-32-0109
徳島	06-315-0109
香川	06-338-0109
高松	078-291-0109
愛媛	0852-27-0109
高知	082-244-0109
山口	0832-33-0109
広島	0886-26-0109
岡山	0878-21-0109
広島	093-521-0109
福岡	0952-29-0109
熊本	096-322-0109
鹿児島	0152-54-3109
沖縄	0266-69-3109
宮崎	09807-6-2109
鹿児島	0992-56-0109
鹿児島	(62年8月オープン)
東京	03-406-0109
東京	03-406-0109
東京	011-521-1090
東京	022-263-1090
東京	052-202-1090
東京	06-314-1090
東京	082-244-1090
東京	092-451-1090

●さわやかホテル●

東急イン



いつかは触れてみたい昭和の感性がある。
もう一度触れてみたい昭和の感動がある。

芥川龍之介から新鋭作家まで昭和文学をはじめて集大成。
昭和の感動を凝縮した文学全集です。

好評発売中

第1回配本〈第5巻〉

川端康成	横光利一	岡本かの子	太宰 治
伊豆の踊子／雪国／名人／山の 音／みづうみ／掌 の小説より・雨傘・ 化粧・さざん花／他	日輪／鷗／春は馬 車に乗って／上海 ／機械／旅愁第一 篇／夢／微笑／洋 灯／他	母子情／鶴は病 みさ／河明り／老 妓抄／家世／東海 道五十三次／食魔 ／他	思い出／富岳百景 ／走れメロス／東 京八景／津軽／お 伽草紙より・猫取り ・カチカチ山／他

装幀 菊地信義／菊地 上製本・ケース入り 表紙特製布クロス 天金／三段組
／各巻平均1,100ページ／各巻口絵8ページ／月報8ページ

定価4,000円(第2回配本以降予価各4,000円)

全巻一時払い価格132,000円(送料別 昭和62年2月末日)

全巻揃い予価144,000円 第2回配本昭和62年1月刊行、以降毎月刊行予定

全巻ご予約の方に「文芸日記一たまゆら」を贈呈(送料別 昭和62年2月末日)

すべての昭和人のための、同時代文学

昭和文学全集

全35巻
別巻1

編集委員＝井上靖／山本健吉／中村光夫／吉行淳之介／高橋英夫／磯田光一
編集参与＝小田切進／巖谷大四

小学館

によって、二十一世紀へ向けてのソ連の経済
再建を是非はかりたいという戦略をもってい
るのであり、この意味でもゴルバチョフ訪日
の失敗は許されず、それだけに、訪日すれば
領土問題が出ることは自明であるから、なお
慎重にならざるを得ないのであろう。

しかも中曽根首相の任期はあと一年足ら
ず、ゴルバチョフ書記長はまだ少くとも十年
はやれるという時間的余裕があることを考え
れば、失態つづきの中曽根首相をソ連側はも
う死に体とみなしているように思われ、ゴル
バチョフ書記長が中曽根首相の任期中に来日
しても、日ソ関係の大きな進展はのぞめない
かもしれない。

さて、以上のような状況の中でゴルバチョ
フ訪日なかりせば、今度は訪米によって最後
を飾ろうという外交日程も浮上してきたよう
だ。しかし、中曽根対米失言の重大性を考え、
最近の米中間選挙に見られる民主党の躍進な
ど、ロン・ヤス関係のパートナーにも驕りが
見えてきていることを思えば、これまたアメ
リカで謝罪せぬ限り、訪米もうまくゆかぬわ
けで、もし、そのようなことになれば、中曾
根外交は、対韓、対中、対米外交といずれも
謝罪行脚でしめくくるといふ国辱の結果に終
ってしまう。結局、中曽根首相は自ら墓穴を

掘る形でしか、中曽根外交の総決算をなし得
ないのではないか。

わが国は今後二十一世紀にかけて、当面の
円高問題を日本経済の活力のなかに吸収し、
さらに大きな経済力と責任をもつ国として存
立してゆくであろう。そのような時代が訪れ
ようとしている時、軽武装・経済主義に徹し
た日本モデルこそ世界に誇れるものだと思は
れる。本来ならば、このような日本モデルを、
米・ソ・中国に対しても正々堂々と主張して
こそ戦後政治の総決算ができるのである。今
日、わが国が再び戦争をしようという体質を
持っているのならば、戦争や侵略から
最も遠い状況にある国であることは、日本国
民ならずともいまや自明であろう。そのこと
をなぜ、もっと胸を張って主張しないのか。
かつての日本の過ちである侵略と戦争責任の
問題で頭を下げるばかりが戦後の総決算なの
では決してないのだ。軽武装・経済主義とい
う今日の日本の成功のカギ、その秘密を、米
・ソ・中などの大国やアジアの周辺諸国に対
しなげ堂々と主張しえないのか。そのような
自己主張によってこそ、戦争責任や贖罪の問
題も決算できたはずなのに、その機会もみす
みす見失ってしまったというのが、今日の中
曽根外交の偽らざる帰結だといえよう。

写真の複写、画像解析、
コンピュータグラフィックス
あらゆる用途に対応！

その上お求めやすいフルセット製品

CO., LTD. カメックス 株式会社 SL

XY微動装置、照明器、ランプ付 ¥39,000

くわしくは下記宛カタログをご請求ください。

〒101 東京都千代田区神田神保町1-38秋元ビル TEL 03(291)3781(代表) 株式会社 イスエフエー・SLB係

文藝春秋・新年特別号・目次

表紙 題(日輪)……高山辰雄
目次・本文カット……加藤東一
目次レイアウト……伊東鉄野

信長と独裁 この国のかたち①	司馬遼太郎……(77)
庭の言葉	江藤 淳……(79)
ある神父の話	河盛好藏……(81)
短いソウル体験から	山田太一……(82)
夢のきもの	中村汀女……(83)
天気と電気	那須 翔……(85)
晩秋、アメリカの夜	高樹のぶ子……(86)
初等幾何学作図不能問題	矢野健太郎……(88)
蘭世界会議	江戸英雄……(90)
旦那ハイケナイアタシハ手キズ	山本夏彦……(91)
学問とともに	今西 錦 司……(94)

特集 日本はどつちだ (102)

日本はホントに豊かなのか……日下公人
日本人は国際化できるか……鈴木孝夫
日本の経済は空洞化するか……竹内 宏
日本経済に希望はあるか……大前研一
日本は韓国に抜かれるか……斎藤精一郎
日本人は親米か反米か……岸田 秀

日本は資本主義国か……長谷川慶太郎
超共産主義国か……
日本の労働組合は生き残れるか……太田 薫
日本人に宗教は必要なのか……山本七平
日本でエイズは流行するか……松本孝夫
日本は新人類に潰されるか……江坂 彰
日本に女性上位社会は来るか……佐藤欣子

「誤国主義」に陥った中曾根首相 (138)

海外支店長受難の時代 (152)
美里泰伸

「金日成暗殺」の24時間 菊池 正人……(166)

売り上げを30倍にした「コマの経営」 (178)
小林宏治

百姓をイジメると国は滅びる (188)
山口 巖

安倍が沈んで宮沢浮上……赤坂 太郎……(202)
新聞エンマ帖……伊藤喜久藏・猿谷 要・中島みち……(208)

新シリーズ

宰相夫人の戦後史 ①中曾根篤子……(262)